



# ボランティア volunteer

2010  
November  
vol.312

# 11

## ボラセンスタッフ日記「ブイログ」 『心に残る思い出の1冊』 September .28.2010

この「ブイログ」は、当ボランティアセンターのスタッフが日々業務の中で感じるボランティア観、社会や地域でおきている出来事について、スタッフの視点で書き込む日記のような記事です。

“読書の秋”ということで、先日近所の図書館に行ってきました。特に、お目当ての本があるわけではなかったのですが、いろんなコーナーをまわっていたのですが、子ども向けの広場で、1冊の絵本が紹介されていました。イラストの入った大きな画用紙を目にした瞬間、私にはそれが何の本だかすぐに分かりました。

『さっちゃんのまほうのて』、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。先天性四肢欠損という障がいを負って生まれたさっちゃんが、自分の障がいと向き合いながら成長していく様子を描いたものです。私が初めてこの絵本と出会ったのは、5歳の頃だったと思います。保育園の本棚には、かわいいキャラクターが表紙を飾る絵本がたくさんありましたが、そのなかで、この本だけは少し雰囲気違っていました。涙を浮かべながらじっと見つめる少女、その姿に惹き付けられるように、私は本を手にとっていました。

主人公であるさっちゃんは、指がないという理由から、幼稚園で「ままごとあそび」のお母さん役をさせてもらえませんでした。私が“障がい”という言葉を意識したのはこの時が初めてだったように記憶しています。難しいことはよく分かりませんが、さっちゃんのようなからだで生まれる人もいること、みんなと違うからだで生まれると、仲間外れにされること、このふたつだけは心に深くやきつききました。その後、障がいを持つ人に出会うたび、決まってさっちゃんの涙を思い出すのです。

このように、胸がしめつけられる場面の多い絵本ですが、卒園するまで何度もくりかえし読みました。なぜかという、さっちゃんが家族との絆から自分の手を受け入れ、今度は、そんなさっちゃんを幼稚園のお友達も受け入れるようになるからです。さっちゃんに向けられた両親からのメッセージ、お友達の小さな行動が、とてもあたたかく胸にジンときます。きっとそんな場面から、子どもながらにいろんなことを感じていたのでしょう。“読書の秋”ということで、私の思い出の1冊をご紹介します。

(もりた)



### 和泉橋地区の情報ステーション一覧(ボランティア情報誌の置いてあるところ)

- ソレキアサービスショップ (鍛冶町 2-9-12)
- お玉湯 (岩本町 2-2-14)
- 千代田岩本町郵便局 (岩本町 2-11-9)
- 岩本町ほほえみプラザ (岩本町 2-15-3)
- 無々 (岩本町 3-3-3)
- 藤井理容室 (神田須田町 2-12)

- NPO 日本渚の美術協会 (神田東松山下町 28)
- ちよだパークサイドプラザ・区民図書館(神田和泉町 1)
- ローレルクリーニング (神田和泉町 1-4-10)
- 麺屋きむら (神田和泉町 1-9-8)
- ハセガワ(神田鍛冶町 3-5)
- 和泉橋出張所 (神田佐久間町 1-11-7)

発行/社会福祉法人千代田区社会福祉協議会  
ちよだボランティアセンター  
〒101-0065 千代田区西神田1-3-4 西神田庁舎4階  
開室日・時間 月~土曜日(祝日を除く) 9:00~19:00  
TEL 03-5282-3716  
FAX 03-5282-3718  
E-mail volunteer@chiyoda-cosw.or.jp  
URL http://www.chiyoda-vc.com/  
※当センターのホームページは、(株)大塚商会様の社会貢献活動の一環としてご提供いただいております。

### ACCESS アクセス

